



学校だより

No. 4 さいたま市立神田小学校
令和4年 6月30日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

キャッチボール

校長 米玉利 優子

きらきらと輝く太陽に負けないうくらい強く光を放っているのは、水泳学習に向かう子どもたちの笑顔です。大きな声を出さないようにという先生の指示をしっかりと守り、シャワーを浴びながら「冷たいね!」「楽しいね!」と目と目を合わせ、豊かな表情で語り合っている姿を見て、思わず微笑んでしまいました。かわいい神田小の子どもたち…コロナ禍にありながらも瞬時を楽しむ姿からは、子どもの強さを感じます。同時に、多くの我慢をさせてしまっていることも痛感し、子どもの心の声を感じとれる大人であり、教師であるのかと自らに問い続けねばならないという思いを強くしました。

「おはよう。」「おはようございます。」「今日も楽しい日にしようね。」「校長先生にも楽しいことがあるといいですね。」心の中を明るい朝日が照らしてくれました。「暑いね。気を付けて帰ってね。」「はい。いつもありがとうございます。」「校長先生も無理しないでくださいね。」あたたかい言葉のお返しができる、素敵な子どもを育ててくださっている保護者はどのような方なのかと、お会いしてみたくなりました。

「キャッチボールは送球ではなく、想球が大切。」二十数年前、神田小学校の校庭で、野球を指導して下さっていたコーチの方が子どもたちにそう話していたのを覚えています。「相手を想って取りやすいところに投げる。高い方がいいのか、胸の前がいいのか。だから、相手のことをよく知らないダメだね。」大きな声で「はい。」と返事をした子どもたちが、進んで友達に話しかけていたのを昨日のこのように思い出します。マスク生活も続き、顔の表情から人の気持ちを推察しにくいこの時期だからこそ、今まで以上に「言葉のキャッチボール」が大切なのではないでしょうか。相手の想いを引き出す質問力、自分の想いを分かりやすく相手に伝える力、そして、豊かな言葉で話し合える語彙力やコミュニケーション力。これこそが、教育の不易であると思います。どんなにICTが発達しても、人間のあたたかい心や想像力は超えられないからこそ「人」を大切にできる「言葉のキャッチボール」を大切にできる人間を育成したいと考えます。相手の取りやすい球や返ししやすい球を投げ、相手の想いを受け止められる人を育成するために、単なる準備運動の「送球」ではなく、自分の力になる「想球」が大切なのですよねと、あの時のコーチにうかがってみました。私と言葉のキャッチボールをしてくれた、かわいいあの子たちはこれからも多くの人とコミュニケーションを図り、豊かな人生を歩んでいくと確信しています。応援していきます。

もうすぐ夏休みです。体験したことや感じたことをもとに、御家族で「言葉のキャッチボール」をしてみませんか。どんな言葉が相手の心に優しく届くのか、どんな言葉で投げ返されると嬉しいのか、家族で共有できる大切な時間が過ごせますように。

感染症の心配も続いていますが、手洗い、消毒、換気、マスク等できることをきちんと行いながら、今月も教職員一同、全ては子どものために努力してまいります。保護者の皆様、地域の皆様には、今月も変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。